

各関係機関長 様

熊本県病虫害防除所長

チャバネアオカメムシの越冬調査結果（技術情報第 1 4 号）について（送付）
このことについて、下記のとおりとりまとめましたので、業務の参考にご活用ください。

記

本年のチャバネアオカメムシ越冬量は平年より少なく、7月までの予察灯誘殺数は、平年より少ないと予想される。

1. 目的

チャバネアオカメムシは、越冬成虫数が多いと7月までの予察灯誘殺数が多くなる傾向が認められている（図1）。そこで、県内各地のチャバネアオカメムシの越冬成虫数を調査することで、7月までの発生量を予測し、防除対策に資する。

2. 調査内容

(1) 調査時期 平成 28 年 1 月～2 月

(2) 調査地点 県内 16 カ所の定点

熊本市（3 地点）、宇城市（5 地点）、玉名市、山鹿市、菊池市、甲佐町、氷川町、芦北町、天草市、苓北町

(3) 調査方法

各地点 3 m²（1 m²×3 カ所）の落葉を採取し、落葉中のチャバネアオカメムシの越冬個体数を計数する。なお、本調査には、近年発生量や被害が増加傾向にあるツヤアオカメムシの越冬量は含まれない。

3. 結果の概要

チャバネアオカメムシの越冬虫数は、県内 16 地点で合計 2 頭（前年 21 頭、平年 11.5 頭）で平年比少であった。また、捕獲地点数も、16 地点中 2 地点（前年 9 地点、平年 6.4 地点）であり平年比やや少であった（表 1）。

4. 今後の発生状況等

(1) 平成 28 年のチャバネアオカメムシの越冬成虫数や捕獲地点数が平年比少であることから、本年 7 月までの予察灯誘殺数は平年より少ないことが予想される。

(2) チャバネアオカメムシは局地的に飛来し、被害をもたらすことがあるので、定期的に園を見回り早期発見に努める。なお、調査対象外のツヤアオカメムシによる被害発生についても同様の注意を要する。

(3) チャバネアオカメムシおよびツヤアオカメムシに関する予察灯およびフェロモントラップの誘殺データを、病虫害防除所のホームページに 4 月以降随時掲載するので、この情報を参考に適期防除等の対策を行う。（<http://www.jpnpn.ne.jp/kumamoto/>）

表 1. チャバネアオカメムシの越冬数 (頭/3 m²)

調査年 調査地点	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	平均 (過去10年)
熊本市河内町①	2	0	0	1	0	1	0	1	1	0	0	
熊本市河内町②	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
熊本市植木町	3	1	0	1	0	1	1	3	1	2	0	
宇城市三角町①	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	
宇城市三角町②	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	
宇城市不知火町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	
宇城市松橋町	1	0	1	0	1	0	0	2	1	0	0	
宇城市豊野町	3	1	0	0	0	1	0	1	1	1	0	
玉名市天水町	0	0	0	2	0	1	1	1	0	0	0	
山鹿市蒲生	6	1	0	1	1	2	0	2	1	5	1	
菊池市玉祥寺	2	0	0	0	1	0	0	2	0	2	0	
甲佐町西寒野	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	
氷川町大野	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2	1	
芦北町田浦	2	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	
天草市本渡町	19	0	0	2	0	1	1	1	0	5	0	
苓北町内田	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	
越冬数合計	43	4	2	9	4	9	4	13	6	21	2	11.5
捕獲地点数	12	4	2	7	4	8	4	8	6	9	2	6.4

注) 平年値は、過去10年間の平均値。

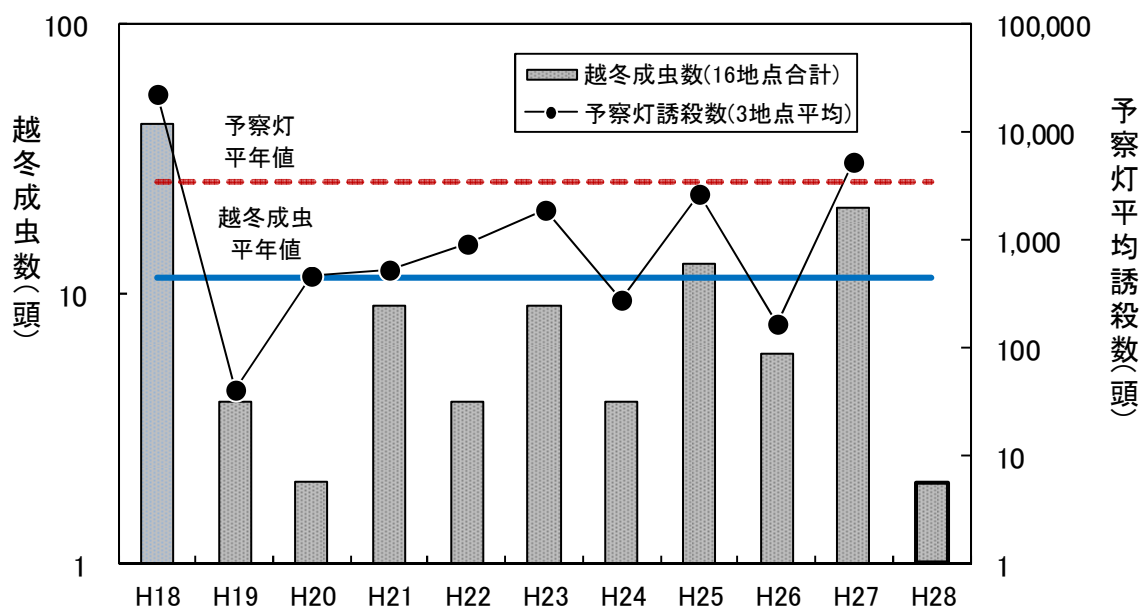


図 1. チャバネアオカメムシの越冬成虫数と前期予察灯誘殺数の推移

- ※「越冬成虫数」は、各 3 m²調査した 16 地点の合計頭数を対数表示 (左縦軸) した。
- ※「予察灯誘殺数」は、合志市栄、宇城市松橋、天草市本渡に設置した 3 か所の予察灯の、4 月から 7 月までの累積誘殺数を平均し、対数表示 (右縦軸) した。
- ※「平年値」は、過去 10 年間の平均値。

熊本県農業研究センター 生産環境研究所
 病害虫研究室 予察指導係 (病害虫防除所)
 担当: 荒木、加賀山 TEL: 096-248-6490